

18 世紀後半に建立された越谷市周辺の三基の「青面金剛」篆書体文字庚申塔

NP0 法人越谷市郷土研究会 秦野 秀明

はじめに

管見の限り「未調査・未報告」であった

①安永九年（1780）九月建立「青面金剛」篆書体文字庚申塔（埼玉県越谷市内・某所）（注 1）

に関して、秦野 秀明によって作成された「調査・報告書」は、令和 7 年同年 9 月 16 日（火）、越谷市教育委員会への配布及び NP0 法人越谷市郷土研究会ホームページへの掲載が行われ、公表された。

その「調査・報告」の際、①の庚申塔の「塔身」に刻まれた「篆書体」と大変良く似た「筆遣い」で表現される

②寛政二年（1790）四月建立「青面金剛」篆書体文字庚申塔（埼玉県北葛飾郡松伏町築比地）（注 2）

③寛政七年（1795）二月建立「青面金剛」篆書体文字庚申塔（埼玉県春日部市西金野井）（注 3）

が、先行研究により「調査・報告」が行われていたことも判明した。

さらに、秦野 秀明によって作成された①の庚申塔の「調査・報告」と、先行研究で「調査・報告」が行われていた②及び③の庚申塔を比較検討することで、①の庚申塔は、②の庚申塔に対して「10 年前」、③の庚申塔に対して「15 年前」に建立されていたことも新たに判明した。

尚、①の庚申塔には「揮毫者名」、「落款印」、「石工名」が刻まれていないが、②の庚申塔には「揮毫者名」、「落款印」、「石工名」が刻まれており、③の庚申塔には「揮毫者名」、「落款印」が刻まれている。

結びにかえて

この「調査・報告書」（本書）の公表によって、18 世紀後半の「15 年間」に建立された越谷市周辺の三基の「青面金剛」篆書体文字庚申塔の来歴や背景などの解明に繋がる基礎資料となれば幸いである。

注

(1) 出典：

秦野 秀明 (2025) 「安永九年 (1780) 「青面金剛」 文字庚申塔」 の調査・報告
https://koshigayahistory.org/250912_1780_kohshintoh_h_hatano.pdf

※①越谷市史編さん室編 (1969) 『越谷市金石資料集』 越谷市史編さん室

②加藤 幸一氏の「石仏悉皆調査」

のいずれの出典においても「未調査・未記載」

(2) 出典：

松伏町教育委員会編 (2024) 『松伏町史 文化財編 (石造物・絵馬・指定文化財)』 松伏町教育委員会
p. 117

※ NPO 法人越谷市郷土研究会 須藤 賢一氏のブログ「けんちゃん！」
<https://happy-kenchan.com/tenshotai-koshinto-nishikananoi/>
を閲覧して情報を入手

(3) 出典：

日本石仏協会編 (1997) 『石仏巡り入門 -見方・愉しみ方』 大法輪閣

日本石仏協会編 (2011) 『新版・石仏探訪必携ハンドブック』 青娥書房

※ NPO 法人越谷市郷土研究会 須藤 賢一氏のX「石仏のある風景」
https://x.com/sekibutsu_photo/status/1956141218733416468
を閲覧して情報を入手



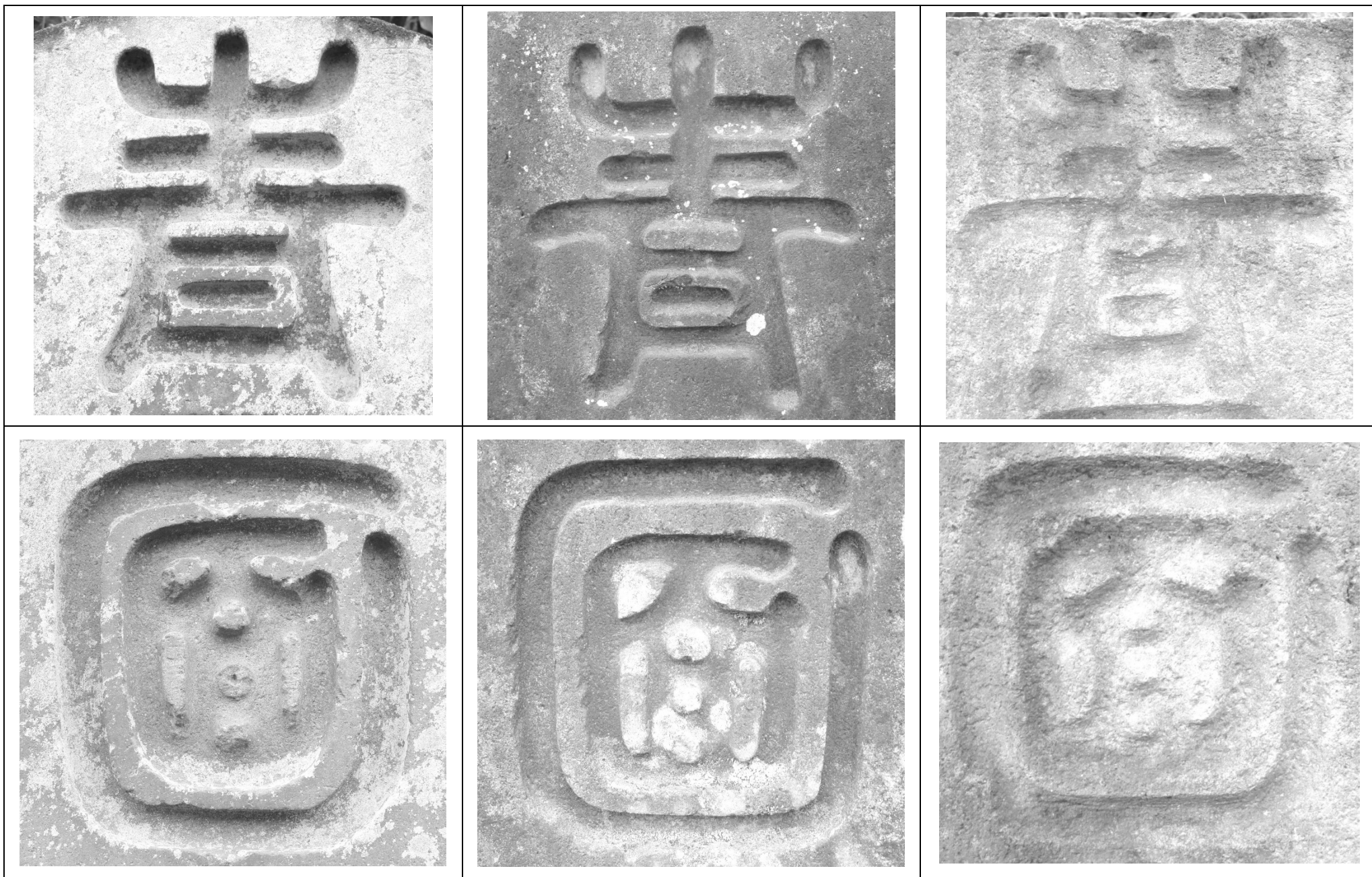
③寛政七年（1795）二月建立
「青面金剛」篆書体文字庚申塔
（春日部市西金野井）
（撮影：2025年9月14日）



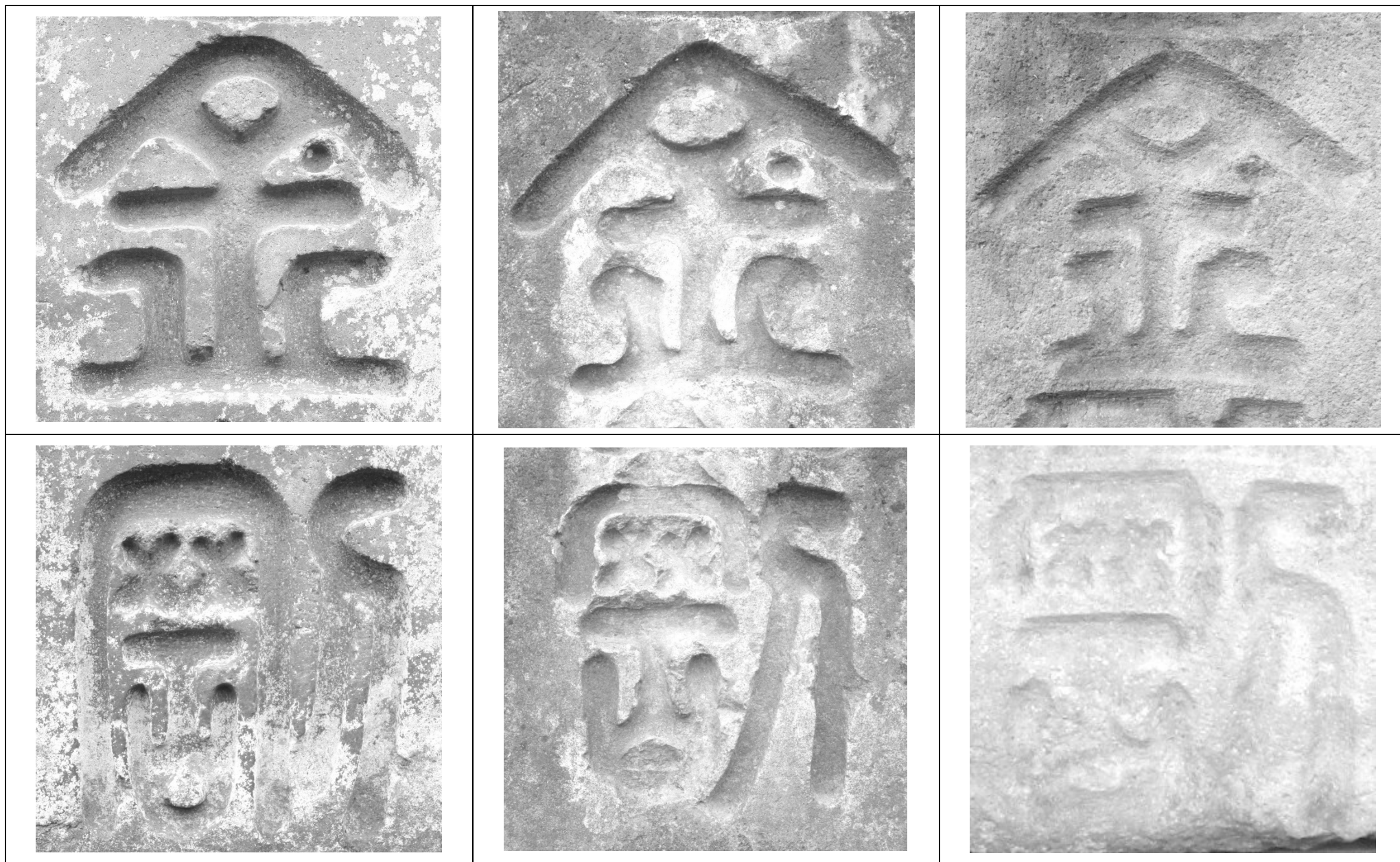
②寛政二年（1790）四月建立
「青面金剛」篆書体文字庚申塔
（北葛飾郡松伏町築比地）
（撮影：2025年9月14日）



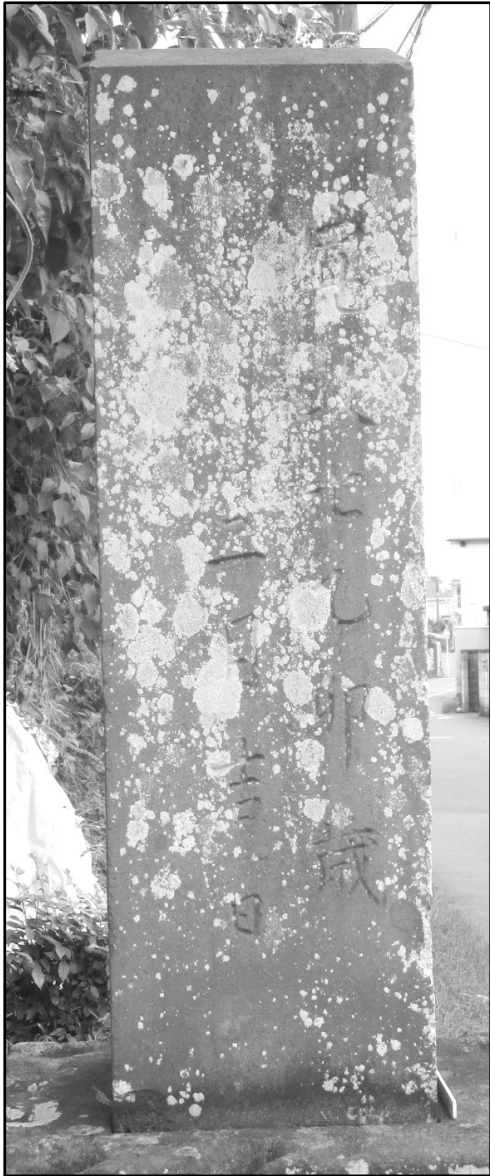
①安永九年（1780）九月建立
「青面金剛」篆書体文字庚申塔
（越谷市内・某所）
（撮影：2025年9月11日）



向かって「左」より③ ② ①（撮影：秦野 秀明）



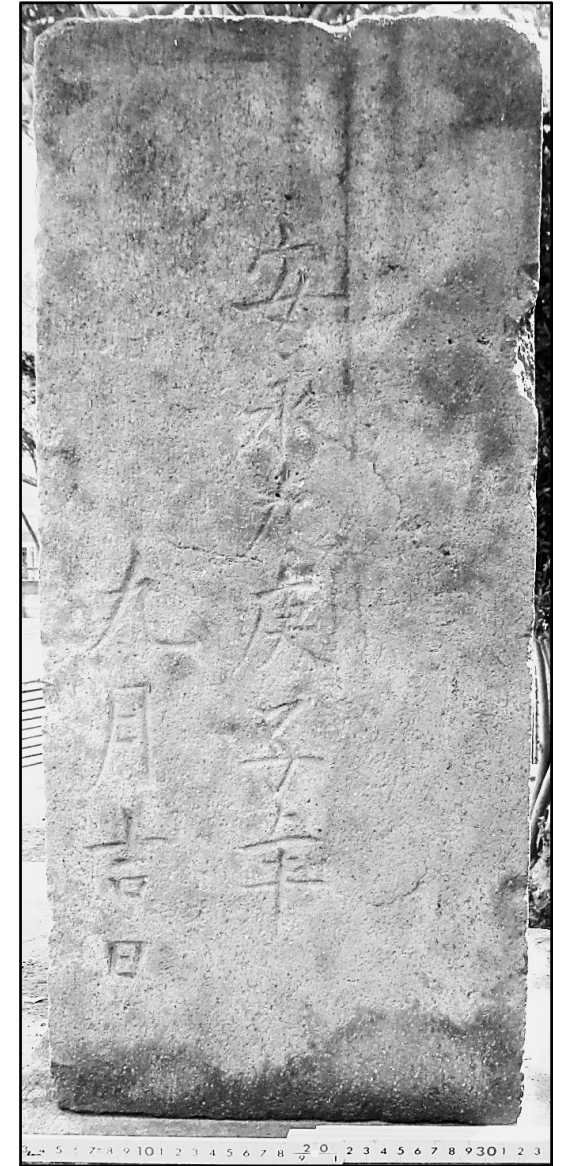
向かって「左」より③ ② ①（撮影：秦野 秀明）



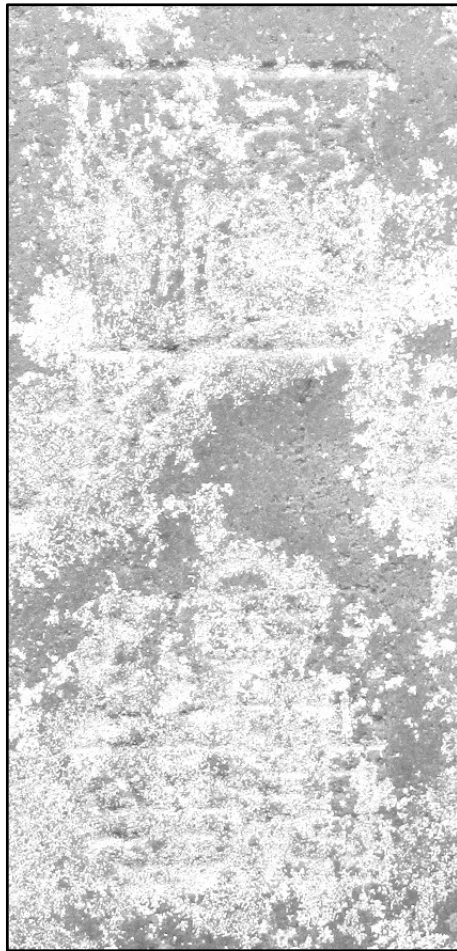
③寛政七乙卯年
二月吉日
(撮影：2025 年 9 月 14 日)



②寛政二庚戌歳四月吉祥日
(撮影：2025 年 9 月 14 日)



①安永九庚子年
九月吉日
(撮影：2025 年 9 月 11 日)



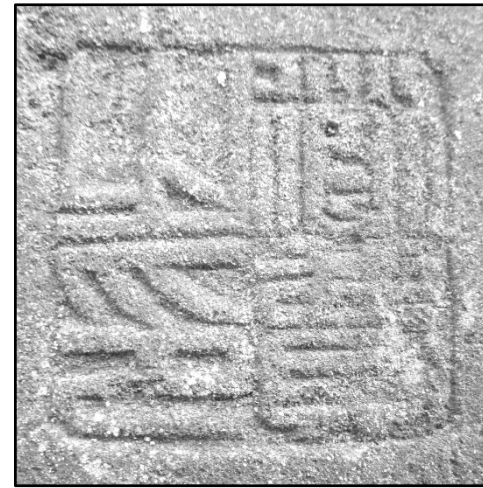
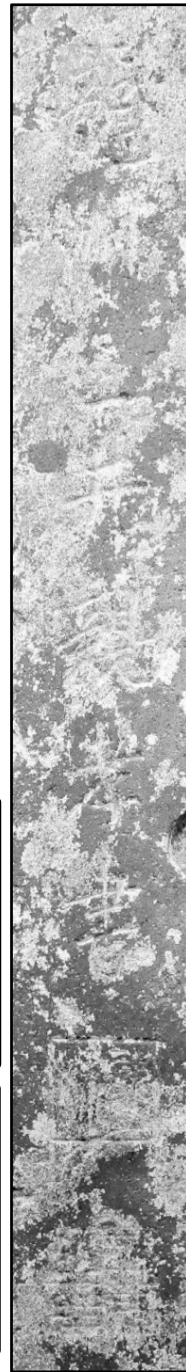
③ ↑ 落款印

②の添付写真「3点」
(撮影：2025年9月14日)
③の添付写真「2点」
(撮影：2025年9月14日)

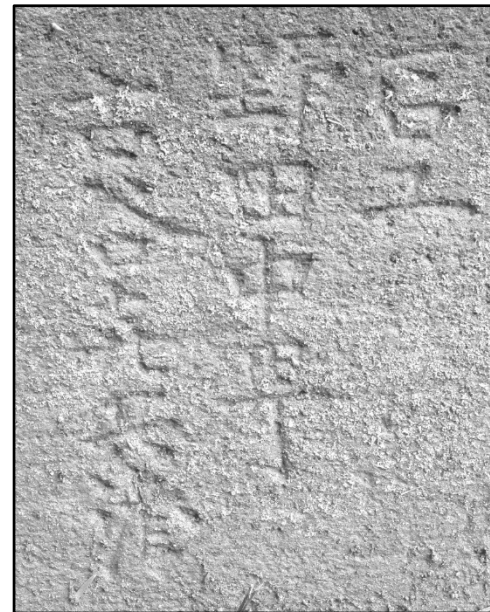
③ → 龍州 三井親孝書

落款印

落款印



② ↑ 落款印



② ↑ 石工
野田中町
古谷崑兵治

② → 長安道費書

落款印



補論：「龍州 三井 親孝」とは

(1)

五二、三井親和

三井親和、字は孺卿、通称は孫兵衛といひ、龍湖、萬玉亭、深川漁夫などと号した。もと信濃の人であるが、江戸に来て細井廣澤の門人となり、深川に居住して安永天明の頃専ら世に鳴った。殊に篆書を善くし、当時絹縮緬などに親和の書風の篆書を染め抜き、之を親和染と称して大いに流行した。かく婦女子に至るまでよく知られた書家であって、また弓術にも優れていた。[中略]

天明二年三月七日年八十三で歿した。深川増林寺に葬った。

出典：

奥山 錦洞 (1927)『日本書道史』啓文社書店 pp, 248, 249

国立国会図書館デジタルコレクション

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1176512/1/170>

(2)

三井親和 龍湖

字孺々 号萬玉亭 称孫兵衛 信州の人 細井廣澤門人

天明二寅年三月七日歿す 年歳八十三 深川寺町増林寺に葬る

三井親孝 龍州

親和男 通称孫四郎 文化十五寅年五月七日歿す 寺同上

出典：

関根 只誠編 (1923-24)『名人忌辰録 下 (芸苑叢書;第2期)』風俗絵巻図画刊行会 p, 165

国立国会図書館デジタルコレクション

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1183053/1/33>